

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: No association between prenatal antibiotics exposure and atopic dermatitis among Japanese infants

和文タイトル: 日本人乳児において胎児期の抗生剤暴露とアトピー性皮膚炎の罹患に関連なし

ユニットセンター(UC)等名: 千葉UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pediatric Allergy and Immunology

年: 2020 月: 2 巻: 31 頁: 218-221

筆頭著者名: 佐々木真利

所属UC名: 千葉UC

目的: 妊娠中の抗生剤使用と1歳時点でのアトピー性皮膚炎の関連について検討する。

方法: 母親の妊娠中の質問票と分娩時の医療機関の報告により情報を収集した妊娠中の抗生剤使用の有無と児の1歳時点の質問票でのアトピー性皮膚炎の関連について多変量解析を用いて検討した。

結果: 経膈分娩で出生し、抗生剤使用と1歳時のアウトカムのデータがそろっていた70,408で検討した。抗生剤使用群、不使用群のアトピー性皮膚炎罹患率はそれぞれ18.1%、18.0%であった。多変量解析の結果、調整オッズ比は1.01(95%信頼区間0.97-1.06)で妊娠中の抗生剤使用と1歳児のアトピー性皮膚炎の罹患に関連性を認めなかった。

考察: (研究の限界を含める)
大規模なデータを用いて妊娠中の抗生剤使用と乳児期のアトピー性皮膚炎の罹患の関連を検討した。調査の限界としては抗生剤使用の時期や種類、量については十分な情報がなく、それらによって層別化した解析は行うことが出来なかった。またアトピー性皮膚炎の定義は調査票のみで行っており、それによる限界を考慮する必要がある。

結論: 日本の70000人を超える経膈分娩で出生した乳児において、妊娠中の抗生剤暴露とアトピー性皮膚炎の罹患について関連を認めなかった。